

小特集 「文学に現れた〈旅〉の諸相」

榎林 滉二

本特集は、尾道大学研究助成金に基づき、平成十四年に始まり、以降、継続して展開された共同研究の報告の一端である。研究テーマは、「日本文学や欧米文学に現れた〈旅〉

を研究対象として、比較文学、比較文化の視点を取り入れ、さらに言語学や哲学等の知見をも加えて、国際的、多元的に『文学に現れた〈旅〉』（「同趣旨書」）を検討するものである。

右テーマのもと、平成十四年当時の日本文学科教員スタッフ十名（研究代表者：森山茂、研究者：木坂基、武田智孝、亀山泰紀、和佐谷維昭、寺杣雅人、村田正英、中村勝則、柴市郎、光原百合）により計画立案、以降継続研究を行ってきた。その間、当該教員の退任や転任（退任：武田、森山、亀山、木坂、転任：中村）、更には、開学期の様々な科内諸整備等によって、研究は必ずしも計画通りには進められなかった。しかし、小研究会、小報告などを順次行い、更には、

新しい研究員を加えつつ討究を持続、現在次の二つの報告がなされている。

寺杣雅人「志賀直哉『清兵衛と瓢箪』考（上）——テクストの変遷とある瓢箪の〈旅〉——」（平成十八年三月『尾道大学芸術文化学部紀要』）

亀山泰紀「『友』の文学」（平成十八年七月『尾道大学日本文学論叢』）

本特集は、その研究継続の間の成果の報告である。また、これをもってひとまずの集約とする。

大学の研究助成に御礼申し上げるとともに、これらをもとに成員は更なる研究を指向している。